社会基盤工学科

社会基盤工学の中心となる学術領域は「土木工学」であり、それは Civil Engineering と呼ばれ、人の生活に密接につながった著しく公共性の高い工学です。社会基盤工学科では、先ず 3 年生までにこれら土木工学の基礎的な技術をしっかりと学びます。

4、5 年生に進むと基礎的科目に加えて専門性の高い実践的科目が増え、内容も高度になります。社会基盤工学科の教育プログラムにより、市民生活や地域産業（水産業、農業、エネルギー関連）の基礎となる社会基盤の計画、設計、施工、診断、維持管理などの総合力を有し、安全で安心な社会基盤を整備する分野で活躍できる技術者を育成します。市民生活と社会基盤整備を取り巻く課題に関する調査、分析の知識を有し、CG/CAD や GIS など高度な情報技術を駆使して安全で快適な空間と環境を創造する分野で活躍できる技術者を育成します。

教育目的

社会基盤工学科は、情報技術を駆使したデザイン技術や設計技術、建設技術、維持管理技術、環境保全技術を身につけ、自然と共生した安全で快適な社会環境を創造できる技術者を育成することを目的とする。

教育目標

(A) 想像力と実行力を持った技術者
(B) 専門技術に関する基礎知識を持った技術者
(C) 情報技術を活用できる技術者
(D) 社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できる技術者
(E) 多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
(F) 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

称号授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

地球環境に配慮した快適な都市環境を形成し、災害に強い街づくりを行うために必要な専門能力や分野横断的な能力を駆使して社会の発展に貢献できる人材を育成します。このため、社会基盤工学科としての具体的な能力（称号授与の水準）を定め、必要とする能力を身につけ、所定の単位を修得したものに準学士の称号を授与します。

1. 学科に共通する基礎的能力
   (1) 現象を客観的に観察するための基盤としての数学、物理、化学などの自然科学分野の知識を持つ。
   (2) 機械、電気電子、情報、化学・バイオ、建設系の専門分野のリテラシーとなる知識を持つ。
   (3) 地域社会、日本、そして国際社会の文化、歴史、政治経済、環境等に関する知識を持ち、広い視点から物事を理解できる。
   (4) 口頭や文章での日本語による表現力を身につけ、英語による基礎的なコミュニケーションがとれる。
2. 社会基盤工学科の工学的専門能力
   (1) 建設系の専門知識を習得して、課題の解決や現象の理解などに活用できる。
   (2) 課題の解決のために専門分野に関係した実験や解析を進めることができる。
3. 分野を横断して必要な能力
   (1) 知識、技術を主体的に修得し、主体的に課題に取り組んでいくことができる。
   (2) 周囲との協調・協働の必要性を理解し、コミュニケーションをとりながら合意形成や問題解決を図ることができる。
   (3) 継続的に成長するための主体的な行動をとることができる。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 学科に共通する基礎的能力を習得するために
   (1) 自然科学分野、情報処理分野の基礎科目を 1 ～ 3 年に設け、講義や演習を主として展開する。
   (2) 初年時に工学のリテラシー科目を設け、講義や演習を主として展開する。
   (3) 低学年に地域社会、日本、そして国際社会の文化、歴史、政治経済、環境等を理解できるようになる基礎科目を設け、講義を主として展開する。
   (4) 全学年にわたり、日本語や英語でのコミュニケーションに必要な科目を設け、講義や演習を主として展開する。
2. 社会基盤工学科の工学的専門能力を習得するために
   (1) 2 年次以降に大規模構造物、インフラ設計、都市デザインなどに関係する基礎科目を設け、講義・演習・分野の基盤となる実験を段階的に展開する。
   (2) 高学年では上記 (1) に加え、景観、都市計画、防災など建設設計分野の高度な内容の科目を開講する。
   (3) 5 年次には卒業研究を開講し、専門分野の知識を活かした研究遂行能力を育成する。
3. 分野を横断して必要な能力を習得するために
   (1) 全学年を通じ、ペアワークやグループワークなどを通して、調査、討論、発表などを伴う講義を展開する。
   (2) 高学年には知識、技術を主体的に習得し、協調・協働・コミュニケーションをとりながら課題の解決に取り組むことが必要なプロジェクトベースの科目を開講する。
   (3) 継続的に成長するための主体的な行動をとることができるキャリアデザインに関係する科目を低学年から展開する。特に4年生ではインターンシップを開講する。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

私たちの生活を支えるインフラ（社会基盤）の設計・デザイン、まちづくりの知識を身につけ、自然災害から人命を守り、自然再生可能エネルギーの利用をはじめとした自然と調和した持続可能な未来社会の課題解決や発展に貢献したいと考えている人。

教　　員

職　名	氏　名	学　位　等	専門分野
教　　授	平 沢　秀 之	博士(工学)	橋梁工学
教　　授	宮 武　　誠	博士(工学)	水文学/海岸工学
教　　授	渡 邊　　力	博士(工学)	構造工学
准 教 授	越 智　聖 志	博士(工学)	海岸･海洋工学/衛生工学
准 教 授	菊 池　幸 恵	博士(工学)	地域計画
准 教 授	小 玉　齊 明	博士(工学)	岩盤工学
准 教 授	金　　俊 之	博士(農学)技術士(建設部門)	山間地環境計画学/砂防工学, 応用地形学
准 教 授	佐々木　恵一	博士(工学)	土地利用計画/都市計画